



事例紹介

榊原工業株式会社



愛知県西尾市の榊原工業は地域と共生し、愛される企業づくりを目指し、全社員で環境経営に取り組みます。



QCD以上の総合的付加価値づくり

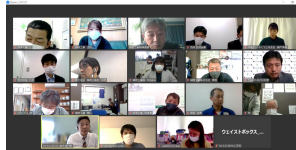
CN取組の内容

● 2021年1月 中小企業版SBT認定取得

コロナ禍で生産が減少する中で終息後を見据えて環境リスクへの対応に着手。マテリアルフローコスト会計手法を活用し工程毎のエネルギー使用量を把握しCO2排出量へ換算し、早期に認定取得。

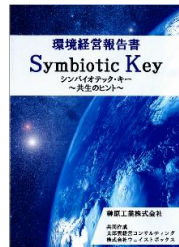
● 環境経営体制の構築

取組を継続させる仕組みとして、新たに環境経営体制を構築し、SBT推進会議を月1回、SBT活動報告会議を年3回開催。
客先、得意先、金融機関、同業者も含め会議推進中。



● 製品毎のCO2排出タグをつけ客先報告

製品毎のCO2排出タグを取引先に提示し、自社の排出量削減行動をPR。合わせて毎年6月1日に環境経営報告書の最新版を発行し客先、得意先、金融機関への送付を実施中。



ここがポイント

ゴミステーションで産業廃棄物を削減

工場敷地内にゴミステーションを設置し、全社員に向け分別を促す。全社員で分別などを行うことで、排出量削減に繋がることを説明。梱包材の再利用など廃棄物削減に対してカイゼン活動を実施し、処分費約30～40万円/月の削減に成功。全額を環境対策費へ充当。



社員一人一人がエネルギー使用量を記録

成形機毎に計測機（m³メーター等）を設置し、社員が作業日報にエアー・ガス使用量などを記入し、エネルギー使用量を実績に基づき把握。IoTによる一括でのデータ取得を敢えて行わないことで、社員一人一人への環境配慮への意識付けを行うとともに、エネルギーの適切な使用に繋げようと活動している。

排出量低減製品の提案

設備毎のエネルギー使用量を把握出来たことで、排出量の少ない設備で製造する製品の提案を実施。競合他社との差別化を実践中。
新規製品見積りの段階で想定CO2排出量を提示することにより、更なる競合他社との差別化を実践中。

※1) SBT・・・Science Based Targetsの頭文字を取った言葉。パリ協定達成のために企業が設定する温室効果ガス削減目標。